

令和8年度

第1回 静岡県総合教育会議

議事録

令和8年度 第1回 静岡県総合教育会議 議事録

1 開催日時 令和8年5月14日(木) 午前10時30分から11時30分まで

2 開催の場所 県庁東館5階特別会議室(対面とオンライン併用による開催)

3 出席者 知 事 鈴木 康 友
教 育 長 前 澤 綾 子
委 員 小野澤 宏 時 (オンライン出席)
委 員 天 城 真 美
委 員 飯 村 幸 生
委 員 渡 村 マ イ
委 員 川 田 善 正

4 進行者 企画部長 山 田 純 哉

5 議 事

(1) 高校教育改革実行計画の策定(協議)

(2) ラーケーションの推進(報告)

山田企画部長：	<p>それでは皆様お揃いになりました。</p> <p>定刻になりましたので、只今から、令和8年度第1回総合教育会議を開催いたします。</p> <p>本日はお忙しい中、御出席いただきまして誠にありがとうございます。企画部長の山田でございます。今日は、よろしく願いいたします。</p> <p>まずは、本日の議事ですけれども、2つあります。「高校教育改革実行計画の策定」の協議、それから「ラーケーションの推進」の報告、この2点を予定をしております。</p> <p>それでは、まず開会に当たりまして、知事から御挨拶を申し上げます。</p>
鈴木知事：	<p>それでは委員の皆様、本日は御多用の中、総合教育会議に御出席をいただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>隣におられます前澤教育長は、今回初めて参加される会議でございます。よろしく願い申し上げます。</p> <p>今日の協議事項は、今、御説明があったように「高校教育改革実行計画の策定」の協議と、「ラーケーションの推進」についてでございます。</p> <p>御存じのとおり、今年度から私立高校の授業料が実質無償化されまして、公立高校離れが進む可能性が指摘されている中、公立高校の特徴をいかに出して、魅力ある学校にしていくかが喫緊の課題であり、この高校教育改革は大変重要な課題であると認識しております。</p> <p>もう1つのテーマ「ラーケーション」につきましては、これは愛知県からスタートしたわけですが、先駆的に取り組んでいる大村知事からその成果についてお話を御聞きしまして、これは大変素晴らしい取組であると感じております。</p> <p>今後静岡県も、関係する皆様に御協力いただきながら、このラーケーションを推進していきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願い申し上げます。</p> <p>本日も実りある会議となりますようお願いを申し上げまして、冒頭の御挨拶とさせていただきます。よろしく願い申し上げます。</p>
山田企画部長：	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、前澤教育長から御挨拶をいただきたいと思っております。お願いいたします。</p>
前澤教育長：	<p>皆様おはようございます。</p> <p>4月に着任いたしました教育長の前澤でございます。昨年度に引き続きよろしく願いいたします。</p>

	<p>第1回総合教育会議にお集まりいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>本日御議論いただく「高校教育改革実行計画の策定」については、2040年の少子高齢化や生産年齢人口の減少、それから先ほど知事からもございましたけれども、いわゆる私学無償化のような教育政策の観点からも変化の激しい時代を見据えて、我が県の高校教育改革を進めていく上で極めて重要なテーマでございます。</p> <p>教育内容の改善にとどまらず、地域の将来像や人材育成、産業構造、それから人口動態などとも密接に関わる極めて重要な政策課題でございます。これにつきましては、従来、教育委員会でも高校の再編統合について、各地域の協議会で議論をしております。また、川田委員にお取りまとめいただきました産業教育審議会の答申もでございます。</p> <p>また、昨年の年末には、「2040年を見据えた県立高校の未来」という方向性を教育委員会でも示しておりましたが、このような今までの議論の土台の上に、さらに教育委員会単独ではなく、関係部局との十分な連携の下、この高校教育改革を総合的かつ戦略的に推進していく必要がございます。</p> <p>また、ラーケーションにつきましては、こどもが多様な学びを深め、平日に家族と触れ合う機会を創出することを目的としており、昨年度の試行を踏まえて今後も取組を推進していきたいと思っております。</p> <p>いずれも、教育関係者だけではなく関係部局、それから地域の関係者や産業界、アカデミアとも十分に連携・協働が必要となるテーマでございます。本県教育人材育成のさらなる充実に向けまして、本日も皆様から忌憚のない御意見をいただければと思います。</p> <p>どうぞよろしく願いいたします。</p>
山田企画部長：	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、早速議事に移りたいと思います。</p> <p>初めに「高校教育改革実行計画の策定」についての協議となります。</p> <p>事務局から資料の説明をお願いします。</p>
事務局： (小原高校教育課長)	<p>高校教育課長の小原でございます。よろしく願いいたします。</p> <p>資料1と書かれた9ページを御覧ください。</p> <p>高校教育改革実行計画策定委員会の設置について説明いたします。この高校教育改革実行計画策定委員会は、文部科学省が本年2月に高校教育改革に関する基本方針「2040年に向けたN-E. X. T. (ネクスト) ハイスクール構想」を公表したことにより、本県においても、この構想に基づく実行計画を策定するため、策定委員会を設置</p>

するものであります。

スケジュールにつきましては、文部科学省から、計画策定に向けた要綱等がまだ示されておりませんが、第1回目を6月9日に開催し、12月頃の公表に向けて進めてまいりたいと考えております。

本日の協議では、高校教育改革実行計画策定委員会で協議した事項を、この総合教育会議にて御意見いただくことについて御議論いただければと思っております。

10ページ、上の資料を御覧ください。

事業の概略等を説明いたします。

今回の構想の背景として、AIをはじめとしたデジタル技術がめまぐるしく発展していることや、少子高齢化による生産年齢人口の減少などにより、労働力需給ギャップが発生することなどを挙げております。

構想で示された高校教育改革の方向性としては、「学びの在り方の転換」「最先端を学ぶ高校の特色化・魅力化」「学ぶ機会・アクセスの確保」の3つの視点を重視しながら、強い経済や地域社会の基盤となる人材を育成することとしています。

10ページ。下の資料を御覧ください。

構想の中核となる高校支援については、都道府県ごとに「実行計画」を策定し、国から基金や交付金等の財政支援を受けることとしております。なお、構想実現のために「専門高校の機能強化・高度化」「普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化」「地理的アクセス・多様な学びの確保」という区分に基づいた改革先導拠点を創設することとしております。

本県においては、既に昨年12月に、「2040年を見据えた県立高校の未来」を示しており、将来を見据えた高校再編を含めた高校教育改革に取り組んでおります。国の構想を契機に実行計画を策定し、さらに改革を発展・加速したいと考えております。

11ページを御覧ください。

文部科学省は、グランドデザインにおいて実行計画を「総合教育会議等を活用し、知事だけでなく関係部局、大学、産業界も関わり作成すること」としており、高校教育改革実行計画策定委員会を設置し、様々な意見を聞きながら実行計画を取りまとめていきたいと考えております。

こうしたことから、委員については、表記の方々を考慮しており、教育委員会、知事部局だけでなく産業界、学識経験者からも選定いたしました。

12ページ、13ページの資料2は、高校教育改革実行計画策定委員会の設置要綱（案）となっております。

説明は以上となります。

山田企画部長：

ありがとうございました。

	<p>以上が事務局の説明になります。委員の皆様から御意見、御質問などございましたらお願いしたいと思います。</p> <p>いかがでしょうか。よろしいですか。</p> <p>それでは、飯村委員お願いいたします</p>
飯 村 委 員：	<p>大変有意義な取組だと思えますが、非常に心配なのが、スケジュールがタイトで、6月にキックオフして、12月にほぼほぼ骨格を決めるという中で、案件の幅に対して、その深さがついていかないのではないかということです。結局、何をやっていくか結論を出せるかどうか非常に心配なので、やはりそこをしっかりと定義しなければいけない気がします。</p> <p>その深さを確保するということ。特に委員の方がいる中で、やはり相当しっかりガイダンスをしないと、ブレインストーミングでやりましょうだととても時間が足りないので、我々は何が困っていて、県は何をやっていかなければいけないんだということと、先ほど前澤さんがおっしゃったように、非常に変化が激しい時ですので、そこの舵取りを委員にある程度考えていただきたいという、初動の立て付けについてもしっかりガイダンスをしなければいけないのかなということ。それから、ちょっと心配なのが、有識者に現場レベルのフィードバックのレイヤーがないような気がしています。この校長会というのがそうなのか、ちょっと校長会が現場のレイヤーと言えるのかどうかよく分かりませんが、ステークホルダーが一部に偏ってるので、やはり他のレイヤーとして現場のフィードバックを常に取り取るレイヤーがあってもいいのではないかという気がします。いかがでしょうか。</p>
前 澤 教 育 長：	<p>はい、飯村委員、大変重要な御指摘ありがとうございます。</p> <p>御意見を2点いただきまして、まずスケジュールとその議論の深化についてでございます。</p> <p>こちらのスケジュールがタイトであることは我々も認識しております。しかし、もう既にこの高校教育改革の実行計画に対して、文部科学省の方で令和9年度以降に新たな交付金が設置される予定でございます。その資金的な支援をしっかりと捕まえていきたいので、令和8年度中に実行計画を策定したいと思っております。</p> <p>確かに、このタイトなスケジュールに対して、どのように課題を設定して、最初の段階で議論いただくテーマを設定するかが重要でございますので、そちらはしっかりと事務局の方で考えて、有識者の方にも事前に明確にした上で議論を進めていくようにしたいと思います。</p> <p>また、現場のフィードバックについてでございますが、確かにこの有識者の人数も少ないように見えますが、これはある意味、脳細</p>

	<p>胞と手足の関係といいますか、脳細胞のところは小さく、ただし機動的にしっかりと議論をしていきたい。形式的に各団体の代表を集める会議ではなく、実質的な議論をしていきたいということでございます。</p> <p>現場とのつながりについては、もちろん校長協会ですとか、今後、大学コンソーシアムの関係者にもこの場に加わっていただきます。</p> <p>それから、この高校改革の実現、高校改革実行計画の一部として、「改革先導拠点」というものを、今後4校程度、文科省の支援で設定する予定でございます。現在、文部科学省で審査中ですので、詳細はこの場では御説明できませんが、各改革先導拠点にも教育関係者だけではなく産業界やアカデミアに入っていたいただいた推進体制を整備する予定です。したがって、その改革先導拠点での議論を実行計画策定委員会にしっかり吸い上げるその仕組みについても工夫していきたいと思っております。そのような形でも現場とのフィードバックを随時できるようにしたいと考えております。</p>
飯村委員：	はい、分かりました。
山田企画部長：	<p>その他、御意見いかがでしょうか。</p> <p>それでは渡村委員、よろしくお願いいたします。</p>
渡村委員：	<p>渡村です。よろしくお願いいたします。</p> <p>すごく大きな計画で確かにタイトですが、子育ての立場から言うと、現状、どう高校を選ぶかという中、先ほど言っていたいただいた私立無償化によって金銭的なハードルが無くなった中で、公立が定員割れしているという事実があります。</p> <p>また、AIの仮定によると、今のままでは2040年、日本、静岡を担う人材がちょっと弱いんじゃないかという、ひいては、その後2050年、2060年、高校を卒業した人たちが就職していったときの日本社会はどうなっているのかという大きな問題がバックにあると思います。</p> <p>今頂いている資料は国で作られた資料で、これから静岡版を作りますが、視点が大きく3つありまして、1つ目が「学びの在り方転換」ですけれども、ここに関しては私立は既にいろいろ試行錯誤されている中で、特に静岡県は他県に比べて公立の普通科が多いという話を聞いていて、普通科を出て大学を出て、地元定着率が高いというようなデータも出ていたので、まさにこの普通科が課題になっていく気がいたしました。</p> <p>ある意味、静岡の特色として、すごく尖った教育を掲げていないので、このボトム的な公立のやり方を変えていくことで、県の特色</p>

として公立のレベルの高さを出していく機会でもあるのではないかと感じています。

その中でやはり一斉授業であったり、偏差値1本であったり、知識詰め型の教育というのは、もうちょっと難しくなってくる。資料の2枚目には「専門高校の機能強化・高度化」ということで、地域発のイノベーションを起こすことができる人材の育成を見据えると、今の詰め型教育で小中まで行って急にイノベーションを起こすことができる人材が高校教育だけでできるのかというと、ちょっと難しいのではないかと感じています。ですので、そういった意味では公立の授業を再設計していくような、もちろん、視点2の「特色化・魅力化」をプラスしていくことも必要ですけど、現状の高校のベースをボトムアップしていくような、授業を再設計していく能力を、そこの生徒たちに与えるAIの技術じゃなくて、教員たちがAIを使って、いかに創造的な授業を展開できるかというところにあると思います。AIを導入して、教えるためにどう自立した学習を設計できるかであったり、学習指導要領に則りながらも、どう自主性を引き出した授業ができるかを公立で取り入れるのは、とても有意義ではないかと思っています。

視点2の地域系の「探究」や地域と繋がる「グローバル人材の育成」ですが、現状、地域探究の授業のコーディネートを頼まれることがあります。本当に授業数が少なくて、そこをヒアリングして終わってしまうとか、SDGsの作文を書いて終わってしまうみたいなことが多くあります。なかなか地域の現場の課題解決まではちょっとハードルが高いと思いますが、地域にコミットした学習がなかなか難しい状況というか、ちょっとそこまでいけないと感じています。

地域という、まさに実践的な学びのフィールドになるので、地元企業の協力も得て、この高校の「特色化・魅力化」を地域ごとに出すことができる。浜松はすごく出している印象があって、視察に行かせていただいた時も感じました。それをより特色化していくという意味では、地域の掘り起こし同様に、この企業の協力と外部人材の投入が必要ではないかと思っています。

将来的には学校の公設民営もあるのではないかと。もちろん完全なというのは難しいと思いますが、バランスを取り、公平性を持ちながらも公設民営の要素を入れていくというのも将来的には可能性があるかなと思いました。

最後の視点3の「小規模校」のところで、統合のお話も出ていたり、それに伴う通信の教育も出ていたりしますが、私この間、熊野古道の方に新しくできた私立の学校に行きましたが、教育移住という言葉がかなり広がってきていて、そこの熊野古道の私立の学校では、入学者の半分が教育移住者というような形で、もはや教育が移

	<p>住する要素になりつつあるというのは東京、都市部とかでは結構大きなポイントになっています。</p> <p>静岡県はアクセスが良いこともありまして、小規模校をフォローしていくという視点よりも、小規模校ならではの、小さいからできる学びであったり、地域密着具合であったり、特に新しく学校ができる時に大きく要素として取り上げられるのが自然環境の豊かさなので、まさにそれは小規模校や伊豆や山間部の強みかと思います。小規模校ならではの強みを作っていけるような方針があると、逆に小規模校を目指していくというような動きも多少生まれてくるのかなと感じましたので、意見として提案させていただきます。</p>
<p>前澤教育長：</p>	<p>渡村委員、いろいろな御意見をありがとうございます。</p> <p>AIの活用のような最先端の技術の取り入れ、対応。それから、地域との密着。それから、むしろその小規模校を強みにしていくべきではないかなど、いろいろと御意見をいただきました。</p> <p>時間の関係で、この場で逐一お答えすることは少し難しいですけれども、この「実行計画の策定」に当たりましては、有識者会議に全部お任せするというのではなくて、随時、教育委員会の定例会にもその状況を御説明して、委員の皆様からも意見をいただく機会を設けたいと思います。ぜひ前向きな、それから思い切った御意見をいろいろいただけるとありがたいと思います。</p> <p>これだけは申し上げておきたいということは、渡村委員に言っていた視点いずれも重要であると思っております。昨年度末に私ども教育委員会でも出しました「2040年を見据えた県立高校の未来」。ここで県立高校の役割を再定義すると示しました。「実学系重視」「グローバル・グローバルリーダーの育成」「多様なニーズへの対応」「教育へのアクセスの確保」と、これはいずれも、今回の国の3つの類型と軌を一にするものであると考えております。ですので、この国の出した方針を、県でどのように進化させていくか、それが「実行計画」であると思います。</p> <p>また、国からの予算を確保して学校に配分し、例えば施設整備を行なうだけではなく、本当に教育のやり方そのものを変えていかなければならないと考えております。そのため、公設民営化自体の具体的な検討をするかどうかは別として、そういう制度的な面からも高校改革をしっかりと考えていきたいと思っております。</p>
<p>山田企画部長：</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>川田委員、よろしく願いいたします。</p>
<p>川田委員：</p>	<p>少し御質問させていただきたいのですが、この資料を理解しようと思ひまして、最初のは文科省が作られた資料でしょうか。</p>

	<p>N-E. X. T. ハイスクール構想の2番目のところに、～2040年に向けた高校の姿～視点1, 2, 3というものがあります。視点1と視点3は分かりやすいと思いますが、視点2のところ、例えば「人材育成」とか、「特色化・魅力化」というのはもちろん重要だと思いますが、これは専門高校だと分かりやすいのですが、普通高校の場合にはどのようなことをイメージされてるのかを教えてくださいませんか。</p>
<p>前澤 教育長：</p>	<p>端的に申し上げますと、この文科省の資料にあります「高度専門職人材の育成」に繋がるような、そして「探究・文理横断」や「STEAM教育」という言葉が出ておりますが、文理融合的な資質を備えた高度理系人材が、一番分かりやすい姿であろうと思います。</p> <p>ですので、普通科と言いますと、今までは総合文系の、例えば語学ができるとか、あるいは人文社会学的な素養というイメージ、印象がありましたけれども、それを思い切って文系的な素養のある理系人材に転換していく、これが国の方向性で、大学改革の方でも示されている方向性でございます。本県でもこれを強く意識していきたいと考えております。</p> <p>また、このような人材が、先端科学を単に使っていただくだけではなく、それを創り出していく側になるとか、あるいはそれを活用していく、いつも知事がおっしゃっているアントレプレナーですけれど、起業家や、社会的なムーブメントなども含めて、変革を起こしていく側の人間になる、こうした人材育成を目指していくことと理解しております。</p>
<p>川 田 委 員：</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>よく分かりましたが、普通高校はたくさん存在しており、それぞれに特色を出していくという意味なのではないでしょうか。というのも、高度理系人材を育成するというのはいいですが、というか非常に重要だと思いますが、みんな何か普通高校ごとに特色を出すとなると、どのような形をイメージされているのかを教えてくださいませんか。</p>
<p>前澤 教育長：</p>	<p>もちろん個々の高校の「特色化・魅力化」は今までも進めてきましたし、今後も継続して取り組まなければなりません。しかし、今回この「実行計画」であえて進めていきたいのは、先ほど少し申し上げた「改革先導拠点」をまず選定しまして、そこで思い切った投資をして、またやり方などもフレキシブルに工夫して、さらにアカデミアや産業界からの連携もいただきながら、まず教育のモデルケースを作っていきます。それを徐々に県内の他の高校に広げていくという形になると考えております。</p>

川 田 委 員 :	ありがとうございます。
山田企画部長 :	それでは、お時間の都合もありますけれども、委員の皆さん、よろしいでしょうか。
山田企画部長 :	それでは、もしこの議題につきまして、教育長、知事からのコメントがありましたらお願いします。 まず、教育長から何かございましたらお願いします。
前 澤 教 育 長 :	私がこれまで発言させていただいたことに尽きますが、国の動きをしっかりと取り入れて、我が県でこれまで積み重ねてきた議論をこれからしっかりと実現をしていく段階であると考えております。 高校改革は、県民のウェルビーイングの向上にも関係すると共に、我が県の産業基盤や社会基盤の強化にも繋がってまいります。 本県の産業の特色や、例えば外国ルーツのこどもが多いという多様性もしっかり踏まえて、より実効性のある「実行計画」を策定していきたいと考えております。 そのため、産業界やアカデミア、知事部局も含めた幅広い御意見を取り入れて作成するべく、総合教育会議の議事としての審議を引き続きどうぞよろしくお願いいたします。
山田企画部長 :	ありがとうございました。 それでは、知事いかがでしょうか。
鈴 木 知 事 :	国の指針も含めて、非常に重要な方針だと思いますが、これを実行するにあたって、一番肝心なところは教員改革です。やはり、教える側の教師の意識、スキルをどうやって変えていくかが、絵に描いた餅にならないようにするためにも重要だと思います。 もちろん現場の教師だけでなく、様々な外部の力も活用していく必要があると思いますので、そういう連携も含めて、今回のこの計画策定には、産業界等々幅広い分野の皆様にご参加いただいておりますので、そうした皆様の知見も含めて、実効性のある計画を作っていくかなければならないと思います。 これからますます変化の激しい時代を迎えるにあたって、こどもたちに一番必要なのは、生き抜く力、特に実践的なスキルを身に付けることであると考えています。非常に重要な改革となりますので、各分野の皆様と、教育委員会、知事部局も含めて、しっかり対応していく必要があると思います。
山田企画部長 :	ありがとうございました。 それでは、こちらの「高校教育改革実行計画」につきましては、

	<p>引き続き総合教育会議の場で、議論を進めたいと思います。 それでは次の議題に移りたいと思います。 次は「ラーケーションの推進」となります。 事務局から資料の説明をお願いします。</p>
<p>事務局： (小松知事政策課長)</p>	<p>知事政策課長の小松でございます。どうぞよろしくお願いいたします。 私からは、資料の14ページからの資料3によりまして、ラーケーションの推進について報告をいたします。 ①の概要のところでございますけれども、「ラーケーション」とは学びという意味の「ラーニング」と、休暇という意味の「バケーション」を組み合わせた造語でございます。保護者の休みに合わせて、平日に学校の外で体験や探究の学びを、こどもが自分で企画して実行できるという制度でございます。 県では、こどもたちの多様な学びの機会を充実させることができ、家族と一緒に過ごす時間を増やすことができる、更には働き方改革の一環としまして、保護者の休暇取得を促進するといった効果があると考えておりまして、このラーケーション制度を、県内に導入しようと取組を進めております。 続きまして②の県内利用者の声でございます。 既に県立学校のうち、県立高校中等部の2校でラーケーション制度を導入しておりますが、その生徒さんたちの活用事例を紹介したいと思います。 資料上段の事例の①では、音楽ライブの鑑賞を通じて、将来の進路として、音楽関係の仕事への興味が深まったという体験が述べられております。 事例の②、中段のところでございますけれども、弁護士の仕事に興味や関心を持っている生徒が、セミナーへの参加や裁判の傍聴を通じまして、より深い理解を得たという内容でございます。実際の経験から、社会への関わり方ですとか、人と誠実に向き合うことの大切さを学んだという点が強調されております。 また、事例の③のように、家で御家族と将来のことや自分の興味のあることについて話し合うなどの時間を過ごすことができ、有意義な1日だったといった声もございました。 続きまして下段の資料でございます。 資料③の現状と課題のところでございます。 先ほどの事例紹介にもございました県立高校の中等部の他、県立学校、特別支援学校、市町立学校の一部などで導入が進んでいるものの、普及はまだ限定的でございます。導入している自治体は全体の約2割、生徒数で申しますと約3割にとどまっております。 ラーケーションの制度ですとか、その意義がまだ十分に教育現場</p>

	<p>などの関係の皆様へ浸透しきれていないところが、普及の拡大に向けた課題であると考えております。</p> <p>続きまして、資料④の今年度の取組でございます。</p> <p>先ほどの課題も踏まえまして、今年度からラーケーションを集中的に県内でPRする「しずおかウィーク」を6月と来年の2月に開催しまして、広く周知を図ってまいります。</p> <p>具体的には、県民の皆様や企業、教育関係の皆様を対象としたラーケーションに関するセミナーを開催する他、県内企業にも御協力いただきまして、ラーケーションを活用した事例などを広く紹介してまいります。</p> <p>今後、県といたしましてもPRを進めてまいりますので、現場への御理解の促進という面で、是非、本日御参加の委員の皆様にも御支援をいただければと考えております。</p> <p>最後になります、資料16ページでございます。</p> <p>家族や地域と共に育むこのラーケーションの取組が、県民の皆様のウェルビーイングを推進することに繋がると考えております。引き続き、県全体でラーケーションを推進してまいりますので、御協力をよろしくお願いいたします。</p> <p>私からの報告は以上でございます。</p>
山田企画部長：	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは「ラーケーションの推進」につきまして委員の皆様から何か御意見、御質問等ございましたらお願いしたいと思います。</p> <p>それでは、天城委員お願いいたします。</p>
天 城 委 員：	<p>県で作成されているラーケーションの動画を拝見させていただきました。とても分かりやすく、是非使ってみたいと思える内容で良かったのですが、後半部分「今後推進していく」ということで、「各学校へ問い合わせてください」というような案内で終わっていると思います。学校に問い合わせるとか、市町に問い合わせるとか、窓口がまだ見えていないために、使いたいけれど実際どう使っているのかという疑問を持つ部分を、例えば、今後何月頃からどこの学校は使えます等、そういった具体的な情報が出てくるとより活用されると思います。「やっってるな」で終わってしまうのではなく、実際「自分も使ってみよう！」と思える内容にさせていただきたいです。</p> <p>また、保護者が、基本的にどこの市町も申請者になっていると思いますが、申請者の保護者に届かなければ、このラーケーションの取組は進んでいかないと思いました。</p> <p>申請に関しても、現状、紙ベースでやっってる自治体が多いと思いますが、今の時代に紙ベースがほとんどというのはいかがなものか</p>

	<p>と思います。また、実施後、感想文を書くようですが、そのフィードバックする点においても紙ベースだけではなくて、アプリですとか電子申請できるような、もっと取り組みやすく、フィードバックしやすい方法を検討していただけると、より活用されると思いました。紙ベースがメインという現状に、少し違和感を感じました。</p> <p>更に申請の簡素化です。やりたいことがあっても簡素化されていないと申請のハードルが上がりますので、申請の手軽さも、検討していただきたいです。</p> <p>また、県内では、特別支援学校で既に導入されているということですが、特別支援学校ではどのような申請事例があったのか、分かるようであれば教えていただきたいと思います。いかがでしょうか。</p>
山田企画部長：	<p>はい。ありがとうございます。 これは事務局の方で答えますか。</p>
前澤教育長：	<p>そうですね。特別支援教育課長お願いします。</p>
山村特別支援教育課長：	<p>はい。特別支援教育課でございます。 今年度からモデル校をスタートしたところで、若干の相談は来ているということですが、具体的な取組は、まだ上がってきておりません。また、具体的なものが上がってききましたら、御報告いたします。</p>
天城委員：	<p>ありがとうございます。 いろいろな学校で取り組むことは、とても良いことだと思いますが、どのような申請が認められるのか、または認められないのか、そういった現状もあると思います。申請して通らなかった事例があれば、どのようなことが通らなかったのか。また、通らない場合、例えば先生方の手助けは可能でしょうか。申請は保護者からと言っているのですが、手助けはしてあげないのでしょうか。どうでしょうか。</p>

前澤教育長：	<p>基本的に、これは使っていただくための制度でございますので、申請については、例えば子ども同士だけの活動は駄目とか、そういういくつかの決まり事はございますが、非常に柔軟に認めていくというものでございます。</p> <p>ですので、先ほど御紹介のあった例などでも、例えば裁判の傍聴に行きましたとか、どうしてもこのような会議の資料ですと、そういうものを出したくなってしまいますが、元々の趣旨が、社会に教育の場を広げるとか、あるいは親子での会話の場を増やすということでございますので、例えばですけれども、学校が休みの週末に働いておられる保護者の方もいらっしゃいますので、そうであれば、このラーケーションの仕組みを使って、どこに行くわけでもないけれども、平日に家でゆっくりお子さんと会話の機会を作っていただくとか、そういうことも含めて使っていただくことができることをよく周知していきたいと思えます。</p> <p>天城委員には、使う側からの目線で様々な重要な御指摘をいただいたと思えますので、工夫をしていきたいと思えます。</p>
天城委員：	<p>ありがとうございます。</p> <p>期待しておりますので、是非、使いやすいものとして発信していただければと思えます。</p>
山田企画部長：	<p>ありがとうございました。</p> <p>窓口の件に関しましては、知事部局と教育委員会で連携して今進めていますので、よく調整して分かりやすい形で示していきたいと思えます。ありがとうございました。</p> <p>その他いかがでしょうか。</p>
小野澤委員：	<p>すみません。どうもありがとうございます。</p> <p>面白い取組ではありますが、そこに何かこう学びの担保というか、何かそういう準備をされているのでしょうか。休みました。新しい体験をしました。だけど、実際、学校では日常が進んでいきます、学びが進んでいきます。というところで、現時点で導入しているのは中高一貫の浜松西と清水南なので、6年間かけてやるから中学3年のこの辺で休んでもいいのかなと、全然この形でできる。でも、休んだ際の授業の進み方が、オンラインで自分が見たいときに見れるのか、そういった、空白期間、空白にならないような工夫をされているのでしょうか。</p>
前澤教育長：	<p>御質問ありがとうございます。</p> <p>その点につきましては、あえてと申し上げさせていただきますが、現在のところ、特別な補償は設けてございません。</p>

	<p>これはなぜかといいますと、もしそこまでやるとなると、学校の側でこの制度を導入するハードルが非常に上がってしまうことを懸念しております。また、このラーケーションを各学校で導入するにしても、まずは学校行事など学校全体の全員に参加してもらわなければいけないような行事があるところとはバッティングしないように、あらかじめスケジュールをきちんと保護者と共有することなど気を付けるようにしております。</p> <p>いずれにしても、例えば体調を崩してしまった際に1日2日休むことは、どのお子さんにもございますし、その場合には当然学校ではプリントを渡すとか、そういうフォローはいたしますので、それと同じような感覚で考えていただいたらいいのではないかと思います。そういう面でのフォローはもちろんきちんといたします。</p>
小野澤委員：	<p>なるほど、ありがとうございます。</p> <p>要は、自分がやりたいことがあったらやったらいいよというような親が少なくなってきた。学校だから行きなさいという家庭環境や、親の学びの方針。そういったところで、こういった制度で、子どもたちの学びを促進させるといいですよねといったことを周知していきたいという、どちらかというところの側面が強いのかなと今のお話を聞いて感じました。ありがとうございました。</p>
山田企画部長：	<p>ありがとうございました。 渡村委員、お願いします。</p>
渡村委員：	<p>ありがとうございます。</p> <p>私、天城さんの意見を聞いて真面目だなと感じましたが、私は既に無断でやっていたなという感想です。</p> <p>こどもが2年生のときに、海外の学校を見学に行ったり、保育園に興味があるということで職業体験へ行かせたり、企業体験で勤務してきたりとか、講演会に参加したいと言ったら積極的に行かせていましたが、このラーケーションを前回の定例会で聞いて、これで堂々とできるんだという印象です。</p> <p>毎回先生に「すみません」というような感じで行っていましたが、これはラーケーションという言葉によって、申請者を増やすというよりは、今、学校が学び、家が生活、のように、学びは学校に期待し過ぎている親が多いかなという感じがするので、これによって、親もこどもの人生のプロセスを共有しながら、いろいろな育児を楽しみながら人生を開いていくとか、学校外で学んでいくという意識を親が持つための啓発運動だと思います。積極的に使いたいなと私は思っていますが、藤枝市はまだなのでまだ使えないんですけども。</p>

	<p>ただ、私みたいに勝手にやっている家庭はいいと思いますが、子どもがやりたいと言ったときに、前例があると、こんなことでも行っているんだと思う親御さんの安心になりますよね。訪問先にコンタクトが取れるコミュニケーション能力がある親にとっても、そこに見学しに行っているいいですかとか、学校を休んで行きたいんですけどと問い合わせた時に、「ラーケーション利用してます」と言うと、受入側も受入れやすくなるのではないかという面では、家庭の外にネットワークがなくても利用しやすい啓発になると思います。</p> <p>また、私の子どももやっていますが、不登校の子とかそういった子どもたちにとっても、学校以外の学びの場であったり、学校を結構客観的に捉えられるような思考が生まれるんですね。学校がある日に学校ではない場所にいるというだけで、子どもにとっては結構大きいドキドキするような出来事だったりするので、その学校以外の世界が広がるという意味でも、個が、個体として世界に向き合う体験ができるのはすごくいいなと思います。</p> <p>「学びは学校に任せるだけじゃないんだぞ」というような親への啓発と、子どもにとっても学校以外の居場所がいろんなところにあるって世界が広がるという意味では、そういった理念を伝えるために、現状の資料だと、割と申請してやるみたい結構硬めな印象なので、もうちょっと意識的なスイッチを押すような資料があると、利用しなくても「ああそうだな」って思えますね。親が子どものために働いてると言いながら子どもと過ごす時間がないっていうことに気が付いたりとか、そのようなことがあると思うので、是非、その辺の理念も入れていただけるといいなと感じました。</p>
山田企画部長：	<p>ありがとうございました。</p> <p>理念をしっかりと入れることを含めて啓発できるように頑張りたいと思います。</p>
前澤教育長：	<p>うまく言語化していただいてありがとうございます。</p>
山田企画部長：	<p>その他、委員の皆さんから御意見ありますでしょうか。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>はい。天城委員、よろしくお願いします。</p>
天城委員：	<p>ラーケーションを、是非自分事として捉えてもらいたいと思うので、この制度を先生方に活用していただきたい。現場としてはかなり厳しい状況だと思いますが、先生方がラーケーションの良さを理解できないと、進まないと思います。</p> <p>ですので、先生がこの制度を使えるような環境を教育委員会の中で仕組みとして作っていただき、先生が体験して、それをまた皆さ</p>

	<p>んに報告するという、そういった事例があると、どんどん広まっていくのではないかと思います。先生方がこれは保護者が使う制度だよねというような捉え方をするのではなく、先生も保護者である場合もありますので、利用できるような仕組みを検討していただきたいと思います。</p>
山田企画部長：	<p>ありがとうございました。 それでは委員の皆様よろしいでしょうか。 ありがとうございました。 このテーマにつきまして、教育長から何かコメントがありましたらお願いします。</p>
前澤教育長：	<p>はい、いろいろな御意見をいただきましてありがとうございました。 ラーケーションは、まさに先ほど渡村委員が上手に言語化していただきましたけれども、学校外に教育のフィールド、学習のフィールドを広げて、保護者と一緒に学んでいく中で、実体験から興味・関心を広げ、深く考え、課題を見つけるという、家族との絆を深めるという意味においても、それから子どもたちの主体的な学びに繋げるという意味でも大事な取組だと考えております。 県立高校の中等部、高校、それから特別支援学校で試行実施をしたことを踏まえまして、さらなる導入拡大に向けた取組を現在進めております。各市町教育委員会にも県からも呼びかけて、導入が進んでおります。 先ほど出ておりましたけれども、ボリュームの大きいところでは、政令指定都市ということで浜松市にも導入を決めていただいておりますし、静岡市の方でも検討していただいていると聞いております。 また今年が本県150周年の節目になりますので、自分の住んでいる県をよく知ろうということで、是非、ラーケーションの趣旨をそういう文脈でも保護者や県民にも活かしていただいて、機運の醸成を図っていきたいと考えております。</p>
山田企画部長：	<p>ありがとうございました。 それでは知事、いかがでしょうか。</p>
鈴木知事：	<p>ありがとうございました。 僕は、このラーケーションを推進している立場です。さきほど、渡村さんが言いましたけれど、私も勝手にラーケーションをやっていたので、こういうものが制度化されるのはとてもいいことだと思います。別に学校だけが学びの場ではないし、どうしてもこれ</p>

	<p>行ってみたくとか、このイベントに参加したいとかいうようなことがあれば、それはそっちを優先して行くのも価値のあることだと思います。そういうことだから、あんまり仰々しく私は考えない方がいいのではないかと思います。</p> <p>そのためにも、先ほど御指摘あったように、手続きも簡単にした方がいいですね。全く勝手にどこに行ってるかわからないというのは困ると思うので、学校に休みますよということを、ちゃんと連絡すればいいのではないかと思います。ですから、あまり硬く考えない方がいいということと、まずはやってみることが大事です。やらない理由ばかり見つけるのはあまり好きではないものですから。是非、県内の学校で大いにこれを普及していただきたいと思います。</p>
山田企画部長：	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、本日予定しておりました議事は以上となります。</p> <p>全体を通しまして、改めて前澤教育長、それから知事から一言ずついただければと思います。</p> <p>それでは、教育長から、もしありましたらお願いします。</p>
前澤教育長：	<p>本日は短い時間ではございましたけれども、高校教育改革、それからラーケーションと、今からまさに実現する、どんどん進めていくべき2つの重要なテーマにつきまして、充実した御意見をいただきまして誠にありがとうございました。</p> <p>また、各論につきましては、年に数回のこの会議だけではなく、教育委員会の定例会ですとか、あるいは移動教育委員会の場などでも、やはり理論と実践の融合のような形で進めていければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
山田企画部長：	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、知事からも全体を通しまして、御意見、御感想等よろしくお願いします。</p>
鈴木知事：	<p>高校教育改革も、ラーケーションも共通しているのは、子どもたちにいろいろな学びの場を提供して、これから変化の激しい時代に自らが生きていくスキル、あるいはそういう能力を付けてもらうということ。それが非常に重要になる。様々なことが、子どもにとって、何が教育効果があるかはなかなか難しいですけど、できれば子どもたちが自らそういうものを発見できる、そういう機会を与えるような、そういうチャンスをたくさん作ってあげることが私は大事ではないかと思います。</p> <p>先日亡くなった、私の大親友の鈴木光司君とは同じ小学校で、当</p>

	<p>時ですね、毎日1,200字の日記書いて来いって、とんでもない宿題を出されたんです。1,200字毎日書くって結構大変ですね。それで、僕はちょうど親と一緒にニュースとか社会性の番組を見ていたので、そういうものの感想を書くようにして、鈴木光司君は、物語を書き始めたんです。僕はそこからいろいろ社会問題に興味を持ったし、鈴木光司君は書くことの面白さを自分で見つけて小説の道に進んだ。彼とよく話したのは、俺らの人生の原点は、あの1,200字の日記にあったなという話をね、よくしてたんです。</p> <p>そういう、なにか、こどもたちが自主的に様々な問題意識を持って自ら生きていく力を身に付けられるように、そういうチャンスこれからたくさん与える事が大事じゃないかなと、そのような気がいたしました。</p>
山田企画部長：	<p>知事ありがとうございました。</p> <p>それでは、これで全ての議事を終了いたします。長時間に渡りありがとうございました。</p> <p>以上をもちまして総合教育会議を終了いたします。</p>